

茅ヶ崎市を拠点に活動する特定非営利活動法人(NPO)「トムトム」。障がいのある人とその家族が地域の暮らしの中でノーマライゼーションを実現するためには、利用者が選択できる豊かなサービスが必要。トムトムはパーソナルサービスを提供するシステムの中で、年齢やその障がいの種別にかかわらず、利用者主体のサービスの確立をめざしている。

長いあいだじっとしていられなかったり、時には大声を出してしまったりする自閉症などの障がいをもつ子どもたちに、生の音楽を聞かせてあげたい。そんな想いで手作りの音楽会を作っていこうと始められ今年で3回目、会場の茅ヶ崎市民文化会館には400人が集った。にぎやかに始まったコンサートは、出演者と観客の垣根が取り払われたようだった。



主催者側の趣旨に快諾し、第1回目から関わってくれた在日2世のヴァイオリニスト、ジョン・チャヌさんは、今や子どもたちにもおなじみとなった。ヴァイオリンが奏でる音色だけでなく、曲と曲の合間の語り口でも、ジョンさんはお母さん方の心を癒した。それは、この社会で疎外され、弱者の痛みがわかる、在日「ゆえのジョンさんの優しさなのではないか」と思った。

今年はジョンさんのヴァイオリンに加えて、初めて趙寿玉さんらによる韓国舞踊と韓国伝統楽器の演奏もプログラムに取り入れた。日本人拉致問題以降、険悪になっている北朝鮮と日本の関係が、在日同胞と日本人の間にも微妙に影を落とし、お互いに後ろ向きになっていく不幸な状態を何とかしたかったからだ。



そのコンサートは今年で3回目を迎えた。普段なかなか生の音楽に触れることができない障がい児らに、クラシック音楽を聴かせてあげたいというのが、そもその動機だった。音楽を通じて健常児と障がい児が共生を図るのはもちろん、福祉政策に腰の重い行政に対するデモンストレーションでもあった。

「自閉症児の息子は舞踊が一番気に入っていました。特に演奏をよく見ていましたが、舞台横なので見えにくかったようです。踊りと演奏が一緒に見られると良かったです」という声や、初めての韓国舞踊に郷愁のようなものを感じたという声もあった。

障がい児と健常児との共生、在日同胞と日本人との共生。ぼくたちは未知の世界に臆することがとても多いが、まずは一步を踏み出すことが大切だと再認識した夜だった。そして、自分の友人にジョンさんと趙さんがいることのすばらしさに、しばらくは胸がつかまってしまった。そういう息苦しい感動は、ぼくには初めてのことだった。

茅ヶ崎 8/9日

じっとしてなくていい 生の音楽を聴かせたい そんな想いから始まった

トムトムチャリティコンサート 裏哲恩



知的障がいをもつ子ども達数人が大きく肩を揺らしながらサムルノリのリズムに体を合わせている。その姿を会場の後から見つめていた。ケンガリのような耳をつんざく音は、自閉症児らには刺激的すぎて、いたたまれないのではないかと、という心配はその時点で吹き飛んだ。どの子どもも会場から飛び出したりしなかった。

日々の暮らしのなかで懸命に生きていく在日同胞、なかでも芸術の世界に身を置く同胞のステージは、必ずや人々に夢や感動を与えてくれるだろうという確信があった。

確信は的中した。子どもたちも大人も、隣国の伝統文化に触れ、新鮮な感動を得たようだ。目を細めて感想を述べ合っている老夫婦もいた。韓国舞踊見たさに、福祉施設の外出許可を得てわざわざ小田原からやってきた1世もいたらしい。コンサートの感想を聞いたアンケートには、「自閉症児の息子は舞踊が一番気に入っていました。特に演奏をよく見ていましたが、舞台横なので見えにくかったようです。踊りと演奏が一緒に見られると良かったです」という声や、初めての韓国舞踊に郷愁のようなものを感じたという声もあった。

奥多摩合宿、そして

トムトムコンサート

◎練習用のチマを着て、うろうろしている、なんとも妙な違和感を感じる。周辺に生息するサルや鹿がよその者の見物に来ては、恐れをなして去って行った。合宿はそんな山深い奥多摩日原で7月27から29日に渡り行われた。参加者は、入門者から中級者までの総勢12名、中級の基本舞と、8月9日に茅ヶ崎で催されるトムトムチャリティーコンサートに向けての練習が主です。

それぞれのチームに分かれて、太鼓の舞、閑良舞、扇の舞、固城五広犬の基本舞の練習に励みます。滝のように、汗が滴り落ち、用意



していたリットルのボトルを、あつという間に飲み干してしまう。固城の基本舞は、身体の中にある悪い気を放出し、良い気を取り入れる呼吸が特徴だと、河萬鎬先生がおっしゃっていた。1時間ごとに身体が引き締まっていくような気がしました。

夕暮れには、小学校の周りにも霧が立ちこめ、1日の練習も終わります。古い学校の長テールに、毎日、祭事の御馳走のように、次々と料理が並べられていく。そして、笑い、語りながら、奥多摩の夜は、オンニたちのおしゃべりに包まれて更けていきました。最終日には野上圭さん宅でのバーベキュー、本当に楽しい思い出です。つばいでした。 尹正美

子どもたちの笑顔 忘れない

このトムトムチャリティーコンサートの公演の為にチュムパンの会では、二ヶ月位前から演目別の練習を始め、合宿でも公演の練習を重ねてきました。

そして当日、8月9日、台風が関東を直撃。舞台進行係、メイクアドバイザー、出演者、一人三役で劇場入りした私にとって、外の台風よりも目の前の劇場の中での、



▲奥多摩 日原での合宿
上からプチュチュム、固城五広犬基本舞
▼トムトムコンサート



伴奏陣の方々ありがとうございました。
左より朴根鐘、李守信、李明姫さん。ほかたくさんの人たちにお世話になりました。

その日一日が台風のようなもので、下準備はぬかりなくしたつもりでも、やはり不安は残ります。リハーサルをなんとか時間内に終える事が出来、ほっと一安心。その後、さあメイクなど出演準備です。今度は、楽屋が台風のようにでした。「なにそれ? どこに塗るの?」「えつ、アイライン? そんなの描いたことない。」「付けたまっけ付けた?」こんな言葉が行き交う中、ペンシルを持ったままただ私の後ろに立っている人や、ひたすらファンデーションを塗っているマイペースな人…。きれいに化粧をし、衣装を着け、舞台の時間が近づくとみんなの緊張感がひしひしと増してくるのを感じました。舞台上上がるまでの間、それぞれの光景を目にし、笑ったり、心配したりと周りの事で一杯で、いざ始まりという時になつて初めて、ドキドキしてきました。舞台の踊りは、落ち着くんだと何回も自分に言い聞かせている内に終わってしまいました。後は流

固城の夏と重なる トムトム公演

れる汗を拭きながら舞台袖での転換の合図出して、緊張の連続でした。でも、それを吹き飛ばしてくれたのが最後のティップリの時、舞台上上がって一緒に踊った子供たちの笑顔と観客のみなさんの拍手子でした。

終わって挨拶をする私の横で「おねえさんたち、すごいね。お姉さんたち、すごい!」と何度も繰り返して言ってくれた女の子の笑顔が忘れられません。辛錦玉

思いは丁度一年前の、固城の夏と重なりました。運良く私たちが固城滞在中に、保存会の先生方の公演を見る機会がありました。そこは固城から、車で一時間ほど離れた養護施設と孤児院を併設している所で、ご近所に住む方々も年一回の公演を楽しみにしていました。時々保存会の若者たちが子供たちに仮面劇の指導もしているらしく、公演自体も大変な盛り上がり

りでしたし、公演が終わった後両班を食べてしまう珍獣役の若者に、子供たちが嬉しそうに纏わりつく姿はとても微笑ましく、心温まる光景でした。その時は、固城保存会の先生方は、本当に素晴らしい活動をしていらっしやるのだなと、感激したものでした。いつか、チュムパンの会でもこんな会を持つてたらと思いはしましたが、まさかこんなに早く機会が来るとは予想もしていなかったもので、体と心の準備が、全然間に合いませんでした。とほ…。

公演の最後、子供たちに「ありがとう!」と何度も言われて、「有難う」はこつちのほうがいいたいよと、心の中で叫んでいました。「また来てね」という言葉が胸にしみ、こんな形で人に喜んでいただけという事を想像していなかった私は、驚き、なんだか子どもたちに救われたような気持ちでした。まだまだ課題も山積みではありますが、先に繋がったよ

うな気がしました。 趙昌代

五方舞

秋



石もち

日本で中秋の名月をめぐるその日を韓国では、先祖を祭り、新しい収穫を祝う日として、三国時代の昔から祝ってきました。

この日を韓国では、秋夕(チュソク)といいます。

旧の8月15日は、月が29・53日で地球を回る関係上、毎年大きくずれます。早い時と遅い時とは、1ヶ月近くずれることとなります。ですが、どういいうわけか秋夕の日、爽やかな気候の日が多く、晴れの日が多いと感じます。

秋夕の朝、親類縁者が集まり、茶礼(チャレ)をします。茶礼というのは、毎月一日と15日にする祭祀を言います。祭祀のためにはその年に取れた穀物や果物を調理して祭壇にささげます。有名なものに半月の形をした松餅(ソンピョン)があります。

女性陣は、これらの料理を作るために、数日かけます。また、韓国全国で一斉にお供え料理をするので、そのために必要な食材の値段は急騰します。

この時期、簡単な贈り物を近しい人の間で行います。日本的な感覚では中元の贈り物に当たります。この時期の贈り物として有名なものに、石もちの干物を藁に挟んで5匹つるしたものがあります。良いものは結構な値段がします。また、秋夕には欠かせない食材ですから、必ず喜ばれます。秋夕の定番贈り

物といったところでしょうか。

ソウルに住んでいる人は、田舎に大移動をします。このため高速道路は大渋滞で、高速駐車場といった観を呈します。ちなみに韓国の基幹高速道路は片側4車線ありです。それが延々と長蛇の車で何十分も動かなくなります。

近年は日本と同じで、ソウルがふるさとの人たちが増えてきており、その人たちは早めに祭祀を済ませて、秋夕の連休を利用して海外旅行に出かけたりします。

茶礼では、紙で祝する人の位牌を書き、後ろの屏風に張ります。年長者男子から礼拝をし、みなのお祈りが終わってから、最後に祝詞を上げます。そして紙の位牌に火をつけて、手のひらの上で燃やして、天国に返します。位牌には例えばこう書きます。これは父親の場合です。

顕考学生府君神位

茶礼が終わると、祭壇に捧げたものを皆で頂きます。それから山のお墓にお参りです。お墓の草は、それまでに刈っておきます。里に戻ると、後は思い思いの遊びをします。地方によっては「カンガンスウォルレ」などの特別なものもあります。ポピュラーなものとしては、牛相撲や、人間の相撲、綱引きなどがあります。

私の親戚はユンノリをして遊んでいました。ユンノリというのは、



松餅(ソンピョン)

丸い棒を半割りにして、それを4本投げ、棒の切れ端が腹を見せたか、背を見せたかでコマを進ませる、すごろくのようなゲームです。庭にユンノリの盤面を画いた筵を敷いて、ゲーム開始です。どぶろくを一杯飲んで、「エイヤツ」と投げ、狙った目が出ると、「両手を広げて筵の上で一指し舞いながら「俺の腕前は大きくなったろう」などと即興で歌います。相手が「うるさい」と、棒を投げ、そして狙った目が出ないと勝っている者は再び筵の上で踊りながら「なんとも上手な人だねえ」と歌いだす。歌ごころや、踊りごころを皆が持つているから成り立つ遊びで、これを日本でやっても、ちつとも面白くありません。単に棒を投げてコマを回すだけに成ってしまいます。面白いのは、ゲームの間の歌や踊りなのです。

李起昇

●フオークロー・ライブ4
チヨウス オク イミョンヒ
趙寿玉 & 李明姫
韓國民俗芸能 舞とソリ(音唱)
10月30日(木)
6時30分開場 7時開演
3500円(要予約・飲み物つき)
会場 コア石響(限定80名)
新宿区若葉1-22-16 ASTY B1
予約 03-33355-5554
FAX 03-3226-9460
URL: http://www.syakyo.com
E-mail: YOW03455@nifty.ne.jp



掲示板
◎12月6日「響けアジアの音」
場所・時間未定
問い合わせ 0428(8)332006
◎12月13日(土) 午後1時から
学習院大学東洋文化研究所
アジア文化研究プロジェクト主催
シンポジウム「日本文化」解体と再生」
16時30分から。舞踊(趙寿玉・黨民
族舞踊文化財団)
場所 学習院創立百年記念会館
問い合わせ03(3988)0221
(内線6360)
◎趙寿玉舞踊教室「おさらい会」
12月14日(日) 場所・時間未定

◎企画制作
(社)全日本郷土芸能協会「コア石響」



「韓国のこころと暮らし—高麗大学校博物館所蔵品展—」開催記念

韓国の民俗舞踊と音楽公演

8月3日 IN 大阪歴史博物館

僧 舞	趙寿玉			
テグム散調	朴根鐘			
カヤグム民謡	李明姫			
～チャング舞	趙寿玉			
立 舞	金裕美	李綾子	寄田晴代	金園恵
伴奏演奏	朴根鐘	李守信		
～閑良舞	趙寿玉			



閑良舞

何も残らなかつたら？ 不安を抱えてのスタートだったが

金園恵

大阪歴史博物館のS氏から突然の電話♪ブルブルブルウウウ♪思いがけないこの1本の電話から、私の忙しい夏が始まりました。高麗大学校博物館所蔵品展「韓国のこころと暮らし」を開催するにあたり、舞踊公演をしたいというのです。話しを聞いていくうちに、私の脳裏に趙寿玉さんの顔が浮かんで消え、浮かんで消え…(横浜→大阪片道約500km、その上超多忙、何よりも心配なのは、打合せに会場下見・交通費・練習・滞在費… あっ！ やっぱ何も残りそうにない… 無理だよなえー と心の中でひとり呟く) 受話器の向こうでS氏が「韓国のこころと暮らし」の展示物を一層引き立たせるしつとりとした韓国の舞と音♪を、とおっしゃられた時、やっぱり寿玉さんしかいない！ この舞台の前に立ちほかった山積みの問題を、昼夜を問わず来る日も来る日も寿玉さんと丁寧じつくり話しました。その一つ一つをどうにかこうにか取り除きながら500kmの距離を埋め「趙寿玉チュムパンの会韓国の民俗舞踊と音楽公演」と題し、8月3日当日を迎えることができました。前日リハーサルの為会場に到着された皆さんをお迎えした時、そこには子どものように心弾ませている自分が立っていました。

大阪歴史博物館のS氏から突然の電話♪ブルブルブルウウウ♪思いがけないこの1本の電話から、私の忙しい夏が始まりました。高麗大学校博物館所蔵品展「韓国のこころと暮らし」を開催するにあたり、舞踊公演をしたいというのです。話しを聞いていくうちに、私の脳裏に趙寿玉さんの顔が浮かんで消え、浮かんで消え…(横浜→大阪片道約500km、その上超多忙、何よりも心配なのは、打合せに会場下見・交通費・練習・滞在費… あっ！ やっぱ何も残りそうにない… 無理だよなえー と心の中でひとり呟く) 受話器の向こうでS氏が「韓国のこころと暮らし」の展示物を一層引き立たせるしつとりとした韓国の舞と音♪を、とおっしゃられた時、やっぱり寿玉さんしかいない！ この舞台の前に立ちほかった山積みの問題を、昼夜を問わず来る日も来る日も寿玉さんと丁寧じつくり話しました。その一つ一つをどうにかこうにか取り除きながら500kmの距離を埋め「趙寿玉チュムパンの会韓国の民俗舞踊と音楽公演」と題し、8月3日当日を迎えることができました。前日リハーサルの為会場に到着された皆さんをお迎えした時、そこには子どものように心弾ませている自分が立っていました。

着順。ということで、今まで韓国舞踊を見た事がない方々に案内を送付しました。開演1時間以上も前からたくさんの方々並び始め、開場を埋める大盛況！ あっという間に250枚の整理券がなくなり、私の知人も何人も整理券を入手できず、入場できませんでした。

裂けそうでした。寿玉オンニご一行様が江戸に帰る背中を見届け、スタッフを労いたくてコーヒーを飲みに行く店の階段で「はあ」とため息がひとつ漏れました。ついでに涙がぼろりん。スタッフで活躍してくれた友人と話してうちに、とうとう私は号泣してしまい店内の注目の的となりました。

舞台は、寿玉さんの僧舞で幕を開けました。ヨムブル(念仏)の調べで寿玉さんの舞が始まると会場内にお息を呑むような緊張感がはしり、観客の視線もこころも舞台上の寿玉さんに一瞬にして釘付けになってしまいました。テグム散調・カヤグムと民謡・杖鼓舞… いよいよ立舞「エラアアエウ」底力と包容力のある明姫さんの歌が始まると、まるで誘いだされるように関西の4人はライトの中に足を滑らせていました。この舞台のために、海の向こうのウリナラで苦勞して学んだ立舞を李綾子さんが私達に伝えてくれました。自主練習ではユミオンニとバチャさんにおんぶに抱っこで、あつちもこつちもおんぶに抱っこでした。

ただただみんなの足を引っ張ってはいけないと無我夢中で練習を重ねてきた私は、本番、ライトの中で震え続けていました。ぶるぶるぶるううう。閑良舞が終わり、鳴り止まない拍手の中へ出演者全員が立ち並びます。幸せな気持ちで胸が張り

舞台を見て下さった方からは「もう一回見たい」「入場無料なんて一度はチケット買ってでも行くから」… 続々と感想が寄せられました。寿玉さんにダビングしながら会場に來れなかつたオモニ(母)とビデオを見ました。オモニが「歴史博物館とあんた達とふかい縁があつたんやねえ。見れなくて残念。ビデオで見てもいい公演やねえ」と呟く。あれからオモニと連日観客気分でのオモニ三昧。ビデオ鑑賞会が始まり1週間がすぎると7歳の娘がビデオを見ながら見よう見まねで踊りだしました。

何も残らなかつたらどうしようという不安を抱えてのスタートでしたが、形としてはなく出演者・staff・観客、それぞれの胸の中になんかが残されたに違いありません。元気なうちにオモニにあの舞台を生で見せてやりたいなあ、と私は密かに思っているのです。

入場無料。客席250席。完全先

入場無料。客席250席。完全先